

14 河曲地区地域づくり協議会



▲防災訓練時の集合写真

ピンクブルゾン
写真で登場しているブルゾンは、協議会の活動時に着用しています。地域を活性化するため目につきやすいピンクにしました。

1 河曲地区地域づくり協議会とは？

河曲地区は中央部を一級河川鈴鹿川が西から東へ流れ、川南と川北に分かれ木田橋が南北間を結んでいます。鈴鹿川以南の平野部には、河田を中心に野辺、竹野、十宮、須賀の5集落があり、田園地域と住宅団地が共存しています。鈴鹿川より北の丘陵部には、歴史的文化遺産が数多く残る国分、木田、山辺、大谷の4集落が位置しています。

協議会は、地域に暮らす住民自らが地域の現状や課題を把握し、行政と協働してまちづくり活動を行うことにより誰もが地域への愛着と誇りを持ち、安心安全に暮らしていけるまちの実現を目指すことを目的としています。



2 主な取り組み

- ・サテライト型防災訓練
地域住民の防災意識の向上を図るため、16自治会の一斉行動を前提とした防災訓練を実施しています。
- ・防災非常食の配布
東日本大震災が発生した3月11日に、防災意識の向上を目的として、備蓄保存に最適な「えいようかん」を、河曲小学校の全児童たちへ1本ずつ配布しています。



▲防災非常食配布の様子

問合せ等あれば、河曲地区地域づくり協議会
事務局：河曲公民館内「地域部屋」 電話番号：059-390-1295

3 今回紹介するのはこの事業！

～サテライト型防災訓練～

大災害時には、河曲小学校の体育館に地区住民の避難が集中し、十分な対応ができないことも想定されることから、各自治会で所定の避難場所を設立するサテライト型防災訓練に取り組んでいます。

- 訓練スケジュール(令和7年度)
- ①防災スピーカーにて訓練の周知【参集訓練】
 - ②各自治会の公園、広場、集会所などの予め指定された場所へ避難する
 - ③各自治会ごとに避難者名簿を作成し、安否確認を行う
 - ④民生委員は避難行動要支援者等の避難状況を確認する
 - ⑤各自治会は避難所となっている集会所の建物の安全確認を行う
 - ⑥各自治会は本部(河曲地区市民センター)に避難者数及び避難状況を報告する【伝達訓練】
 - ⑦本部で物資(災害非常食)を受け取り、各避難所で避難者へ配布する【物資供給訓練】

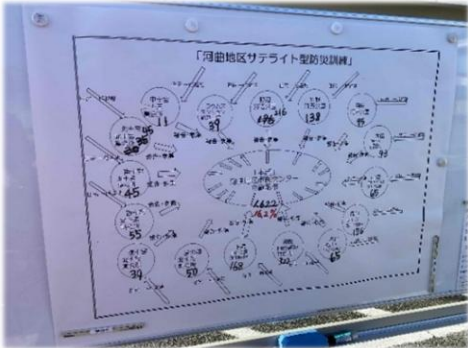


▲物資供給訓練の様子



▲避難者へ配布する災害非常食

4 どんな課題や思いがあるの？



▲各自治会の避難者数を記録

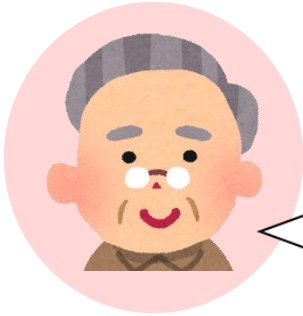
鈴鹿川より南はほぼ全域が河川浸水が予想されることもあり、急な災害が起こった際はパニックになることもあるので、初期行動の訓練を毎年行うことで、迅速に対応するために始まりました。

訓練は今年で9回目ということもあり、本部の設営や各訓練はスムーズに行うことができました。

今年度の参加率は16.11%で、昨年度の16.02%から0.09%の増加となりました。年々、参加者は増加傾向にありますが、まだまだ低い数値となっています。

参加率を向上させるため、地域住民への訓練の周知や参加の呼びかけなどが課題となっています。

5 参加者の声



毎年行うことによって、自然と防災意識が芽生えます。平常時から備えておくことが大切だと感じました。



防災訓練を通じて、住民同士が顔を合わせてコミュニケーションを取る良い機会にもなりました。